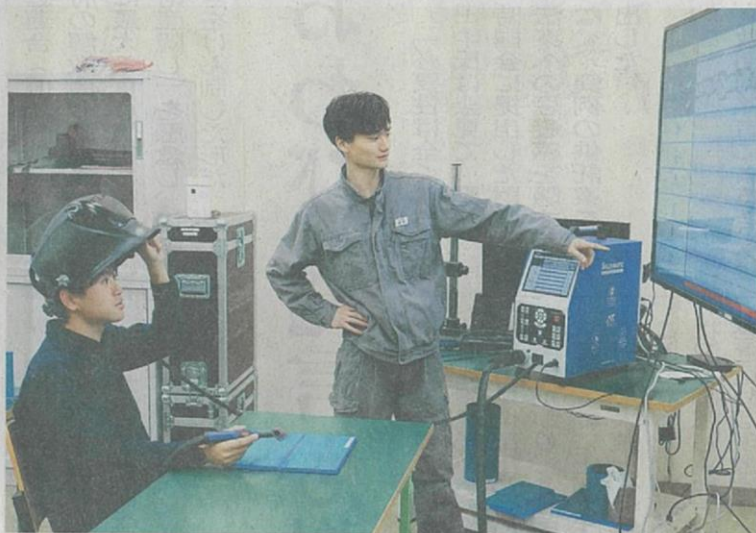


就職やキャリアアップを目指す人に必要な知識や技術を教えるポリテクセンター富山(高岡市八ヶ)は7日、同施設で報道関係者向けの体験会を開いた。11月の「人材開発促進月間」に合

わせて実施し、AR(拡張現実)技術を活用した溶接のシミュレーションを用意。最新機器の利点や習得方法を探るため、記者が初挑戦した。さて、結果やいかに。(倉谷巨)

ARが上達アシスト

本紙記者 ポリテクセンター富山で溶接体験



体験の結果を数値化して説明する指導員(中央)
＝ポリテクセンター富山

ポリテクセンター富山は職業訓練などを手がける施設。本年度は、県内で求人が多い溶接のほか電気工事やプログラミングなど8コースを設け、123人が受講している。

体験したのは、溶接工を目指す「テクニカルメタルワーク科」で使うAR溶接シミュレーター。受講者は溶接とは縁のない仕事をしてきた人が多い。実技の前

に、危険のないARで注意点や心構えなどを確認できる。これなら、いろいろなと安心だろう。

シミュレーターは、溶接に使う「トーチ」や「遮光面」にそっくりで、重さや形はほぼ本物。ずっしりと重い遮光面を装着すると、中の小さなモニターにAR処理された映像が映る。映像は鮮明で、目の前にあった緑色のワークシートが銀色の

鉄板にさっと姿を変えた。この日は横一直線の溶接を体験。スイッチを入れると、実際と同じようにトーチの先端が真っ白に強く輝き始めた。ワークシートから少しだけ浮かせながら、トーチを移動させるのが実に難しい。うまくいくのだろうか。

そんな中、驚いたのがAR処理された映像だ。自分の手の動きには遅れることなく、作業の様子が目の前に広がる。さらに、模範

ARを活用したシミュレーターの強みは「成績の数値化」と「危険がないこと」だ。ポリテクセンター富山の担当者によると、溶接は感覚に頼る部分が大きく、改善点をどのよう指摘するかが指導員の課題だった。数値化したことで受講者と改善点を共有しやすくなり、映像を見返しながら指導できるようになった。

熟練者の技を体感できることも利点だ。実際の溶接は光が強く目に悪影響を及ぼすため直視できない。シミュレーターはこの弱点も克服し、受講者の学びが深まる。

改善点数数値化 危険性がないため、ハローワークなどの説明会でも活用できる。県内では溶接工の求人が多い。今年を受講者数が増加傾向で、担当者は「AR体験の効果があるかもしれない」と話す。